

第2回向日町競輪事業外部有識者会議 議事概要

- 日 時：令和4年9月13日（火） 13：30～15：40
- 場 所：向日町競輪場 選手管理センター 3階305会議室
- 出席者：川勝座長、岡崎委員、奥野委員、小長谷委員、徳廣委員、山本委員

<第1回向日町競輪事業外部有識者会議における主な意見>

「資料1」に基づき、京都府から説明

<議事>

(1) 競輪事業の現状について

「資料2」に基づき、(公社)全国競輪施行者協議会から説明

(山本委員)

- ・ 30年前は売上のほとんどが「本場（レースが開催されている競輪場）」であったものが、今は全体の1%になっています。そういう意味では、今後、新しく施設を考えていく上で、競輪場に来て車券を買っている人自体が減っている。ただ、競輪事業としては、チャンネルの多様化により成り立っているので、施設のあり方についてどのように考えていくのかという時には、こうした売上及びチャンネルの状況で、「本場」と、「場間場外（レース開催場で発売している車券の場外発売を行う他の競輪場）」という項目が競輪場で売っている売上に相当するということを考えると、ウエイトは下がっているとはいえ、なくなってしまっている訳でもない。そのバランスを考えて、今後この場所をどのように有効に使っていくのかということを考えておくべきではないかということになります。
- ・ グレード別の売上に関して、グレードが高いGグレードのレースの方が昔は売れていたのですが、最近は時間帯の移行で、ミッドナイト、ナイター競輪を含め、Fグレードのレースも売れてきています。京都府だけで決められることではないのですが、どのような時間帯のバランスで開催をしていくのかということについて、向日町競輪場でもミッドナイト競輪を始めていますが、考えていかなければいけないと思います。
- ・ 収益の話ですが、赤字の団体はなくなって、向日町競輪場の状況も十分黒字ではありますので、地方財政に貢献するという観点からは十分に満たしているのですが、京都府全体という観点から見ると、おそらくこの金額は、京都府財政全体に占める割合としては決して高くないという状況であり、この点が、施行者が市町村か、都道府県かの大きな違いになってきます。
- ・ そういう状況の中で、他の面として、地域貢献をどのように考えていくのか。収益以外のところで考えていけるかという話も考えていかなければいけない。収益の水準はどこが妥当かという決まり事はないので、何とも言いがたいところではあります。
- ・ 競輪業界としての目標値についてはほぼ達成しているのですが、おそらく地方公共団体からはもう少し上の方の目標が、今後出てくるのではないかと思います。そのときに、どのぐらいの売上と利益を考えていくか、それにどのように合わせていくかということが、個別で考えられることはそれほど多くはないのですが、あるのかと思います。
- ・ ギャンブル依存症は、IR、つまりカジノができるということによって、対策をという話になっています。入場を止めることができる、インターネット投票を止めることが

できるというような対策が具体的には行われています。

- ・ ブレーキとアクセルをどう踏むのかということだとは思いますが、賢く楽しんでいただくという意味では、平均の購入単価の話が少しありましたが、今は1万円を切っているぐらいなので、依存症というところからは脱しているのではないかと。私が初めて競輪に関わったのが20年ぐらい前であったのですが、その頃の購入単価は5万円と言われていて、みんなが5万円を使うということに驚いていたのですが、今は、ある意味で健全な遊びになっていると見ても差し支えないのではないかと思います。

(徳廣委員)

- ・ ボートレースがこれだけ売上が伸びた理由について、コマーシャルなどテレビの露出が増えたことと女性のレースが多いという感じがしているのですが、そのような解釈でいいのでしょうか。

(全国競輪施行者協議会)

- ・ いろいろな要素があるかと思っています。CMの露出というのはここ数年非常に大きくなって、非常に有名なタレントを使ったCMが大きいというのが1つです。
- ・ ボートレースは6艇で行いますので、数が少ないということで、当たりやすいという要素もあり、先ほど1日1人当たりの使う金額というのがありましたが、それを回していくような、割と当たりやすいのでその当たったお金で次を買ってという循環ができていくところがあるのではないかと考えています。

(徳廣委員)

- ・ 競輪事業としても、やはり何らかの参考にはしていけるのではないかという思いで、質問しました。

(全国競輪施行者協議会)

- ・ 1点補足させていただきますと、ボートレースの場合は、女性のレースの話がありましたが、男性も女性も一緒にレースができたりするのです。あるいは、マシーンを使って行いますので、1日に2回レースに出場でき、1回あたりの参加人数を減らして、開催数を多くするということができるのです。競輪の場合は、人間が足で走りますので、1日1回しか走れない。選手も限られていますので、儲かるからといって開催数をどんどん増やしていけばいいということにはならないというところがあり、そのあたりも大きな要素の1つではないかと考えています。

(川勝座長)

- ・ ボートレースが近年著しく伸びているという説明でしたが、その理由はテレビCMの影響などとのことでしたが、他の公営競技と比較した時に、競輪事業が持つ競争力というものは、もしあるとするならば、それはどういった点にあるのでしょうか。

(全国競輪施行者協議会)

- ・ 競輪場の数が全国に43場あり、これは他の公営競技にはない、そのベースとしての財産となりますので、そうした非常に広がりがあるということが1つです。
- ・ それから、競輪の場合、例えば年末の12月30日にグランプリというレースが開催されます。1レースで100億円近く売れるレースですが、単体のレースでそこまで売

れるのは、ボートレースでもない。競馬は少し違う部分がありますが、そういう意味では、競輪のポテンシャルというのは、それなりにあるのだろうと考えているところです。

(川勝座長)

- ・ 競輪場の数の多さと、年末に限ったレースということにはなるが、1回限りのレースの非常にポテンシャルが高いということでした。これが他の公営競技と比較した時の1つの強みのようなことになりそうだということです。

(小長谷委員)

- ・ 民間ポータルの売上が全体の59%とありますが、委託業者は何社あるのですか。手数料は一律ですか。また、委託先を選ぶ際には、入札のようなことを行うのでしょうか。

(全国競輪施行者協議会)

- ・ 民間ポータルは4社で、手数料は11%から14%まで若干幅があります。また、基本的には、各施行者がそれぞれで契約をしていますが、業者が限られていますので、ほとんどの施行者が4社全てと契約をされており、車券の発売を委託する形になります。

(小長谷委員)

- ・ 手数料について、競争原理のようなものが働くのは難しいのですか。

(全国競輪施行者協議会)

- ・ 競輪の売上がかなり下がってきた時に、競輪の売上がどのようにして上げていくかというところで民間ポータルに入ってきていただいたという経緯がありまして、その時に割と高めの委託料率が設定されたというところからして、今それを下げるよう努力しているところです。

(岡崎委員)

- ・ JKA補助金について、財団法人や社会福祉法人が交付対象になっていると思うのですが、今でも地方公共団体が直接交付を受ける制度にはなっていないのですか。

(山本委員)

- ・ 現状は、地方公共団体が直接補助金の交付を受けることができるという制度はなくなっています。例外は、公設工業試験場等の機械設備への補助で、ほとんどは都道府県になります。機械設備の購入事業だけが、地方公共団体が直接補助を受けることができるメニューになっています。

(奥野委員)

- ・ 各施行者の事情が様々あるので、売上と収支の関係は一概に一定のルールで説明できないとの説明があり、そこは理解できるのですが、運営などで指定管理制度のような制度を導入されていたり、またそうしたものを引き受けられている事業者の数について、状況を教えていただきたい。

(全国競輪施行者協議会)

- ・ 競輪事業の場合、いわゆる包括委託業務契約を結んでいるケースがあります。現在、

包括委託業務を受託している民間事業者は4社ありますが、1つの事業者が1つの競輪場だけをやっているところもありますし、1つの事業者で複数の競輪場を受託されているところもあります。全国では25の競輪場において、包括委託業務契約を結んでいる状況です。

(2) 向日町競輪場の特徴及び他の競輪場の状況について

「資料3」「資料4」に基づき、京都府から説明

(山本委員)

- ネット売上率は、どこの競輪場もコロナ禍の影響もあって、非常に高くなっているのに、向日町競輪場はミッドナイト競輪を始めたということで、非常に増えているのではないかと思います。収益率もそれですごく上がってきているということが言えるのではないかと思います。
- 例えば、ナイター競輪やモーニング競輪など、開催時間の多様性を図って、更に売上の向上を図るといっても考えられるのですが、夜とか早い時間になりますので、地域の御理解も必要となりますが、これがどこまで可能かどうかというところがあります。
- 施設についての基金が唯一設置されていないとの説明がありました。小田原競輪場の事例も出ましたが、それぞれ何らかの形で、いわゆる一般企業で言えば内部留保に当たるようなところを、これまで持たずに、一般会計への繰出をし続けたという昭和の時代があって、平成の時代は売上が下がってきたというところで内部留保が不十分だったという状況もありましたので、これからは、何らかそういうものを積み立てておいて、施設整備、その他の環境改善に使えるようにしておかなければいけないということです。その点はいち早く対応をお願いできればと思います。また、費用的にも、地方公共団体金融機構納付金について触れられていますが、こちらも基金を設置することで、正直なところ、費用が圧縮できます。この費用はただ出て行くだけの費用で、経営上は可能な限り払わないようにすべきだと思います。基金設置かその他の方法で、圧縮を図り、少しでも京都府の財政への貢献や施設整備に還元できればいいのではないかと思います。
- 他の競輪場について、玉野という場所は非常に特殊な場所で、昔でいうと宇高連絡船の宇野というところで、四国に渡る場所です。逆に言うと、瀬戸大橋ができてしまって、全くさびれてしまったという問題があって、地域としてどうしようかという問題を抱えています。
- リゾートホテルはあるのですが、街中にビジネスホテルレベルのホテルがほぼないという状況があり、玉野競輪場でもいろいろな方が働いておられるのですが、そうしたビジネスで関わる方々でさえも泊まる場所がないという実態があります。最寄りの大都市である岡山市まで、車でも電車でも1時間かかってしまうので、非常にそういう部分が困っていたということと、船で香川県の直島というところに渡れるのですが、ここでは瀬戸内国際芸術祭という大規模なイベントを行っていて、ここへの通過点でもあります。
- その集客も考えて、選手宿舎は、競輪の開催日数上限があるので、最大で100日強ぐらいしか使わないのです。そう考えると、選手宿舎の残りの200日ぐらいについて、観光客や一般客を取り込めないかということもあって、今回、ホテルという形になったという特殊事情があります。
- 例えば、向日町競輪場では、選手宿舎の有効活用として、夏合宿などによく使われているかと思うのですが、玉野競輪場のような需要がこの地域にあるのかどうか。また、逆にそれを行政がやるということは、ある意味では民間がやることに対する競争を圧迫

するという問題もはらんでいますので、玉野競輪場のように実質競争どころか、立地がないということでできた事例ではありますが、そうした面もその地域の状況を踏まえて、1つの例としては面白い取組ではないかと思えます。

- 他の競輪場の事例は、基本的には競輪場自体をどのように有効活用するのかという話の延長線上にあります。玉野競輪場の事例はそういうところがあることを補足しておきます。

(徳廣委員)

- 資料を見れば向日町競輪場がよく頑張っているというイメージを非常に受けました。それから、リニューアルや工夫をされている新しく改装された競輪場について、資料を見ると、やはり収益向上に繋がっているのではないかというイメージを持ちました。

(京都府)

- 向日町競輪場については、昼間開催だけではなく、ミッドナイト等の多様な競輪の取組を進める中で、売上も上がってきています。それ以前からもコスト削減の取組は努力してきているのですが、民間包括外部委託を行う中で、さらにコスト削減等も進める中での収益の向上ということで、かなりの努力をする中、こうした業績を少ない人数の中で収益を生み出してきたのではないかと考えているところです。

(岡崎委員)

- 向日町競輪場の位置付けとしては、他の競輪場の状況を御紹介いただいた中では、「街中にある競輪場」のグループに入るのではないかとおもうのですが、その場合、運営や今後の施設整備を検討する中で売上げを伸ばすには、ナイター競輪やモーニング競輪の実施の検討も必要と説明されています。「街中にある競輪場（川崎、岸和田、豊橋の各競輪場）」では、ナイター競輪やモーニング競輪が実施されているのですか。

(京都府)

- ナイター、ミッドナイト、モーニング競輪の実施状況ですが、岸和田競輪場では、本年7月からミッドナイト競輪を始めておられます。また、モーニング競輪を10年ほど前にやっておられたのですが、その時限りという状況です。また、川崎競輪場では、ナイター、ミッドナイト競輪に、豊橋競輪場では、ナイター、ミッドナイト、モーニング競輪のいずれにも取り組んでおられます。

(奥野委員)

- 他の競輪場の事例で、老朽化の除却・集約など、いわゆる施設の稼働を上げるということも説明にありましたが、向日町競輪場の収容人数は、全国11位の2万人で、令和3年度は年間で2万4368人が利用されていて、1日当たりの平均は840人ということですが、昨年度の1日のピーク時の利用人数はどれくらいであったのか。

(京都府)

- 来場者のピークは、昭和46年度で約97万人となっています。また、昨年度の1日のピークは2700人ほどであったかと思えます。

(川勝座長)

- ・ 一般会計の繰出金が、累計で見ると全国で4位となっています。あらゆる全国比較の中でも、この指標に関して割と高い数値になっています。これは、基金の積立などが特に行われてこなかったということが原因なのかどうか。売上と一般会計への繰出については必ずしも相関関係にないということでしたが、原因がわかれば教えていただきたい。

(京都府)

- ・ 一般会計への繰出に関しましては、特にルール等が京都府の場合は決まっている訳ではありません。財政当局との間で、一般会計の収入の見込みなども勘案しながら、当該年度の繰出額を決めているという状況があります。過去5年間において、繰出額が15億円となっていますが、平成28年度に5億円を繰り出しており、その後は、3億円や2億円という形で、平均的な割と押し並べての数字になっているという状況です。
- ・ 他の競輪場の例で言いますと、繰出のルールがある競輪場もあり、一般会計への繰出額と基金への積立額が1対1であったり、一般会計への繰出額が7で、基金への積立額が3ということで、一般会計への繰出金の額が基金が存在することによって影響している部分は、多分にはあると思います。向日町競輪場には基金が設置されていないので、財政当局との調整の中で、その時々京都府財政の状況を見て、一般会計への繰出の額を決めている状況にあると考えています。

(小長谷委員)

- ・ 圏域人口の状況で、競輪場の近隣地域が、0歳児から4歳児の人口の構成比が全国3位ということがすごく素晴らしいことであると思います。この時期に本当に楽しい思い出をしたら、後々ずっと大人になってもその記憶が残り、その次の子供たちにもそれが受け継がれていくのではないかと思います。そうした意味で、老朽化した、今全然使っていない施設を処分、整地され、公園のようなスペースや道の駅のような地元品の直売所みたいなものの整備もすごくいいのではないかと思います。競輪場の近隣で、道の駅のような直売所などはあるのでしょうか。

(京都府)

- ・ 道の駅に関しましては、近隣では、亀岡市のガレリアかめおかになるかと思っています。なお、乙訓2市1町に道の駅はなかったと思います。直売所に関しては、大規模な直売所はおそらくないと思うのですが、農協等がタケノコなどの特産品を販売しているところは、存在しているかと思っています。

(小長谷委員)

- ・ 高速道路のサービスエリアで、例えば、愛知県の刈谷ハイウェイオアシスが、非常に賑わっていると聞いています。そうした、地元の人や観光客も集まっていただけ施設もどうかと思い、発言しました。

(3) 自転車競技と競輪場（自転車競技場）の魅力と可能性について

「資料5」に基づき、徳廣委員から説明

(山本委員)

- ・ 施設具体案について、333mトラックと250m木製トラックの2つを作るということですか。トラックの中にトラックを作ることはできないので。

(徳廣委員)

- ・ それはあまりにも大きくなってしまうので、別々になると思います。両方があるところは、伊豆ベロドロームで、練習用も含めてトラックが2つあります。現実を考えると、333mトラックがあればいいと思います。

(山本委員)

- ・ 向日町競輪場で333mとなると、トラックの形状を変えることになるので大きく変わることはなるが、競技との兼ね合いを考えると、トラックを新しくするのであれば、333mトラックにするのは大いにあり得るかと思います。今のままでは少し難しいかもしれませんが、御検討いただくことができればいいと思います。

(奥野委員)

- ・ 夢を見るようなワクワクする場所が変わる。地域の子供たちの育成も、家族連れも来られ、また学生のスポーツ選手としての育成も兼ねた先にはプロがあるというストーリーがきちんとでき上がって、大変いい提案ではないかと思います。
- ・ 施設具体案で、全面屋根付き333mトラックであれば、イベントでも使えるということですが、イベントの開催時にトラックはどうなるのか。トラックの中心の楕円部分をイベントで活用するというイメージですか。

(徳廣委員)

- ・ イベントでトラック部分は使えないので、平面部分を使うことになると思います。例えば、持ち運びの設備を設置して、そこでBMXのフリースタイルを開催することも考えられます。屋根があれば可能となる屋内競技は、高齢者から子供まで含めた生涯スポーツの利用も可能であり、グランドゴルフやゲートボールでもいいのではないかと思います。また、親と子供が集って屋外で競技を見ることがするのも面白いと思います。バンクを見るだけでも、子ども達にはなかなか機会がないので、「速い、すごい、乗ってみたい」と、「自転車って綺麗だ」と思ってもらえる機会になればいいかと思います。
- ・ 例えば、競輪を開催していない時には、フリーマーケットも開催でき、屋根さえあれば天候に関係なくイベントができるということはすごく魅力的であると思います。

(奥野委員)

- ・ 333mトラックは、バンクの周囲の全部に観客席があるイメージですか。

(徳廣委員)

- ・ 今の状況から考えるとそれほど観客席はいらないと思います。メインスタンドに観客席があればいいと。基本的にはインターハイなどの大会においても、選手自体は日陰で控えて、ウォーミングアップなどを行っていますので。
- ・ テレビカメラがいろいろな競輪場に設置されていますので、暑い時はその前で見えてお

られる人も多くいらっしゃいます。バンクを外から見られるような、客席とまではいなくても、通路のような形で周囲にあれば、立って十分に見られるのではないかと思います。また、バンクが斜めなので、その下側が屋根代わりになって、例えば、クライミングやボルダリング施設や子どもが遊べる場所ができるのではないかなど、いろいろな考え方もできると思います。

(4) 意見交換

(川勝座長)

- ・ 全体を通じて、改めて確認できたことを3点申し上げたいと思います。
- ・ 1点目は、競輪事業の運営面におきましては、ここ何年かの間で大きくモデルチェンジしたということです。開催の時間帯、販売方法などが従来型のものから大きくモデルチェンジしており、そのことが競輪事業の収益の回復に大きく寄与しているということが改めて確認できたように思います。
- ・ 2点目は、一般的には、競輪のような事業は、公営ギャンブルという側面がクローズアップされがちですが、競技・スポーツとしての魅力とそのポテンシャルがあるということです。
- ・ 一般的には、それほど高く認知されている状況にはないのですが、スポーツとしての魅力だけではなく、例えば、産業としての魅力なども少し視野を広げて考えてみると、様々なポテンシャルがあるのではないかと思います。
- ・ アメリカでは自転車はどちらかというと、非常に土地が広いので、通勤・通学のような使われ方というよりも、レジャーとしての使われ方をしています。また、使用されている自転車も、日本で言う「ママチャリ」のようなものではなく、ロードバイクのような1台何万円もするようなものがスタンダードになっている。そういうことになると、産業としての魅力もかなりのものがあるのではないかと思います。
- ・ これまでの2回の外部有識者会議では、客観的な素材として、産業という側面についてはあまりなかったように思いますが、そういう意味でのポテンシャルは、世界レベルで見てもそれなりにあるだろうということ。またそれに付随して、大会などのイベントは、観光資源という意味での産業としての魅力も合わせ持つのではないかと思います。
- ・ 3点目は、競輪場という「場」としての魅力、あるいはそのポテンシャルと言ってもいいのかもしれませんが、これもかなり一般的に認識されているものに比べると、いろいろな形でその可能性があるのではないかと思います。
- ・ 本日、他の競輪場の状況を紹介いただきましたが、共通して、施設をコンパクトにするというような手法がとられていたかと思うのですが、単にコンパクトにするということだけではなくて、まちづくりと一体的に取り組む、あるいはコンパクトにしたことで生まれた余剰スペースをうまく活用していくという工夫が共通して行われていたように思います。競輪場が競輪をするための場というものに限らず、いろいろな機能を持ち合わせている、そして地域の人にも愛されるような場づくりにも取り組まれている状況が非常によくわかりました。
- ・ とりわけ、向日町競輪場は、子育て世代が非常に周辺に多く居住されているという強みも持っており、長期的な視点に立ったときに、子育て世代を上手く巻き込んで、競輪場を魅力ある「場」に仕上げられるのかがその成否を左右するような感じもしました。
- ・ 北桑田高校は、そうした場づくりの典型例であると思うのですが、競技・スポーツの

練習場としても活用され、人材育成の場、有力選手を輩出していく場にもなっているということで、ますますそういう場としての重要性も増してきているように思いました。

- 本日、競輪事業の現状とそれから様々な可能性ということで御説明いただき、また委員の皆さんからもいろいろな御意見いただいて、私としては、今申し上げたような3点が、今後、向日町競輪場のあり方を考えていく時に、重要な指針になるのではないかと感じた次第です。

(以上)